

———ニュース解説をお送りします———

南海トラフの外側に活断層か(3月10日 17時40分, NHK ニュース)

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130310/k10013094841000.html>

地震が想定されている南海トラフ周辺の海底地形を、活断層の専門家が詳しく分析したところ、南海トラフの外側に、活断層の可能性のある地形が新たに見つかりました。すでに見つかっている活断層と合わせるとマグニチュード8を超える巨大地震が発生し、東海や関東などに大津波が押し寄せるおそれがあるということです。

(中略)

これらの結果は、今から500年余り前の1498年に発生した「明応地震」の津波の記録とおおむね一致するという事です。明応地震は、南海トラフで起きたとする考え方がありますが、津波の記録と合わないため、研究グループは、この活断層が明応地震の震源の可能性が高いとしていて、南海トラフ以外の津波対策も考慮すべきだと指摘しています。



元のニュース全文はウェブでご覧いただくとして、このニュースの重要性は、いわゆる「東海地震」の発生様式が極めて多様性に富むという事を改めて示唆した事です。

東海地震・東南海地震・南海地震というのは非常に単純化された分類で、過去にはあまり地震動は大きくなかったものの、大きな津波が生じた地震もありました。

その一つが明応の地震(1498年)です。静岡県ではあまり大きな揺れは報告されていないにもかかわらず大津波に襲われました(浜名湖の今切という地形がこの時できました。「今、目の前で決壊した」という事です。また沼津市では標高36mの処に平目平という地名があるのですが、この時ヒラメが打ち上げられたという伝承に起因しています)。いわゆる津波地震ともいえるものでした。鎌倉の大仏もこの地震の津波で崩壊したという記録が残っています。

この解釈の一つが今回の銭洲付近(南海トラフの沖合)に巨大な海底断層があるのではないかとこの事でした。実は従来から銭洲付近では新たなプレート境界(沈み込み帯)が生成しているという考えがあったのです。つまり海溝軸が沖合にジャンプしつつあるのです。

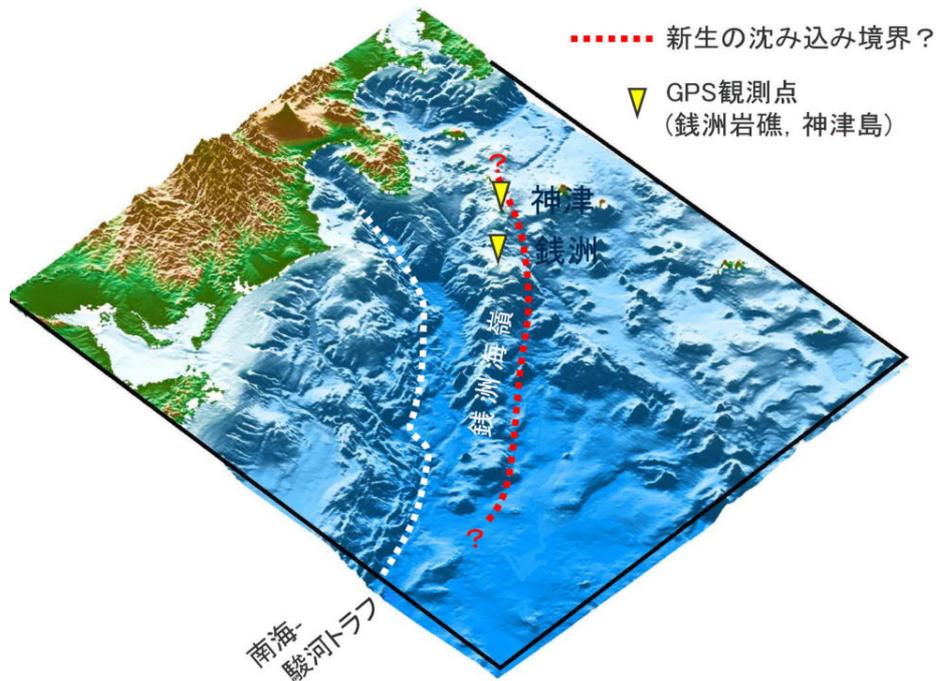
その意味ではこの発表は当然の事と言えます。海溝軸のジャンプというのは何万年も何十万年もかか

って次第に遷移していくもので、「いつから」を特定できるものではありません（まさに地学的な時間スケール）。ある時は南海トラフ（駿河トラフ）で地震が発生し、時々この銭洲付近の新たな沈み込み帯（＝断層）で地震が発生するという事なのだと思います。

それでは「海溝軸のジャンプ」とはどのような事なのでしょう。実は海溝というのは、常にその場所に存在するのではなく、地質学的な時間スケールでは場所が変わる事が知られています。

今回の「南海トラフの外側に活断層か」というニュースは、現在の沈み込み帯（＝南海トラフ＝プレート境界）が伊豆半島の西側で駿河湾内という事になっており、ここで過去に東海地震や東南海地震が発生したと考えています。しかしながらこれまでの神津島や銭洲岩礁のGPS地殻変動観測結果を見ると、どうも駿河湾内でプレートの動きから期待されるほど沈み込んでいない事がわかってきました。

という事はどこかで変形が消えている訳です。この解釈として、従来から神津島と銭洲岩礁の東側に下図に示すような新しい沈み込み（＝海溝）が形成されつつあるためと解釈されていました。今回はそれを海底地形から確認したというニュースです。そして時々ここで大地震が発生していたのではという事です（明応の地震）。



日本周辺には日本海の東側（青森沖、秋田沖、山形沖）でも同様の現象が始まっていると考えられています。あと100万年もすると日本海の東側にも海溝が出来るのです。そしてここで北海道南西沖地震ですとか、日本海中部地震、新潟地震などが発生しています。

「動かざる事大地の如し」という諺がありますが、これは今後訂正され、「動く事大地の如し」となるのではとも考えています。

